

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 30 日 (2021.9.30)

【公開番号】特開 2020-166947 (P2020-166947A)

【公開日】令和 2 年 10 月 8 日 (2020.10.8)

【年通号数】公開・登録公報 2020-041

【出願番号】特願 2019-63732 (P2019-63732)

【国際特許分類】

H 0 1 R 4/50 (2006.01)

H 0 1 R 43/00 (2006.01)

H 0 1 R 31/08 (2006.01)

H 0 1 R 11/32 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 4/50 A

H 0 1 R 43/00 B

H 0 1 R 31/08 Z

H 0 1 R 11/32

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 17 日 (2021.8.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

(2) 前記スライド部は、前記挟持部に対して、前記加圧部が前記挟持部と離れている仮係止位置と、前記加圧部が前記挟持部を前記電線に押圧する本係止位置との間で移動可能になっており、前記端子保持部は、前記挟持部に対して前記本係止位置にある前記スライド部と係止することが好ましい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

図 1 に示されるように、本実施形態にかかるジョイントコネクタ 1 0 は、複数の電線 1 1 の延び方向（矢線 Y で示される向き）の前方端部にそれぞれ接続される複数の端子 1 2 と、複数の端子 1 2 に接続されるバスバー 5 0 と、複数の端子 1 2 およびバスバー 5 0 が内部に収容されるロアハウジング 3 0 と、ロアハウジング 3 0 の上部に取り付けられるアッパーカバー 6 0 と、を備える。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

[バスバー 5 0]

図 4 に示されるように、バスバー 5 0 は金属板材を所定の形状にプレス加工することに

より形成される。金属板材としては、銅、銅合金等、任意の金属を適宜に選択できる。バスバー 50 は、後方に延びる複数（本実施形態では 4 個）のタブ 52 と、タブ 52 の前端部を、中継部 53 を介して連結する連結部 54 と、を有する。タブ 52 は、左右方向に扁平な板状をなしている。連結部 54 は、上下方向に扁平な板状をなしている。中継部 53 は、連結部 54 から後方に延びて形成されている。中継部 53 の右側縁は下方に折れ曲がって、タブ 52 に連なっている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

端子本体 15 の係止突起 28 とスライド部 16 の仮係止受け部 26 とが係止した状態は、端子本体 15 に対してスライド部 16 が仮係止位置に保持された状態となっている（図 12 参照）。この状態においては、スライド部 16 の上側加圧部 25A および下側加圧部 25B は、端子本体 15 の上側挟持部 18A および下側挟持部 18B の後端縁から後方に離間している。また、この状態においては、上側挟持部 18A と下側挟持部 18B との間隔は、芯線 13 の直径よりも大きく設定されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

図 9 に示されるように、ロアハウジング 30 のバスバー挿入孔 51 に、前方からバスバー 50 が挿入される。バスバー 50 の係止孔 56 内にロアハウジング 30 の係止爪 35 が挿入されることにより、バスバー 50 がロアハウジング 30 内に抜け止め状態で保持される（図 10 参照）。バスバー 50 のタブ 52 が端子 12 の筒部 17 内に挿入される。タブ 52 と、弾性接触片 19 とが接触することにより、タブ 52 と端子 12 とが電氣的に接続される。これにより、複数の端子 12 がバスバー 50 を介して電氣的に接続される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

スライド部 16 が端子本体 15 に対して本係止位置に保持された状態で、スライド部 16 の上側加圧部 25A が、端子本体 15 の上側挟持部 18A に上方から当接して下方へと押圧する。また、スライド部 16 の下側加圧部 25B が、端子本体 15 の下側挟持部 18B に下方から当接して上方へと押圧する。これにより、芯線 13 が、上側挟持部 18A と下側挟持部 18B に上下から挟持される（図 12 参照）。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0072

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0072】

スライド部 16 は、上側挟持部 18A および下側挟持部 18B に対して、上側加圧部 25A および下側加圧部 25B が、上側挟持部 18A および下側挟持部 18B と離れている仮係止位置と、上側加圧部 25A および下側加圧部 25B が上側挟持部 18A および下側

挟持部 1 8 B を電線 1 1 に押圧する本係止位置との間で移動可能になっており、端子保持部 6 3 は、上側挟持部 1 8 A および下側挟持部 1 8 B に対して本係止位置にあるスライド部 1 6 と係止する。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

